



福中だより

☆☆☆教育目標☆☆☆ 希望 創造 潤い

昭島市立福島中学校
平成28年12月14日 NO.11
042-541-2940
創立37年目(昭和55年開校)

12月10日は「世界人権デー」

校長 長野 基

平成28年度全国中学生人権作文コンテスト東京都大会 奨励賞

平成28年度昭島市人権作文コンテスト 優秀賞

2年 山下 尚紀

僕は小学校一年生の時、左足に病気を発症しました。1Kg以上もある装具を左足に付けました。現在は右足に装具を付けていますが、この装具は歩くたびにガチャガチャと機械音を鳴らします。どこに出かけても、すれ違う人が皆、僕を見ます。コソコソと話す人もいました。人の目が嫌で、人のいる所に所に行くのが嫌な時がありました。そんな時家族は、僕を人の少ない所に誘ってくれたり、リラックスさせてくれたりしました。そして徐々に人の多い所にも行けるようになりました。

また、歩く速度も遅くなってしまうので、おいていかれる時もあり、つらい事もたくさんあったけれど、仲の良い友達がいつも側にいて楽しい小学校生活を過ごすことができました。

きっと世の中には僕の知らない病気や障害がたくさんあって、多くの人が頑張っているのだと思います。でも個人の頑張りには限界があって、健康な人には何でもなく出来ることでも、病気や障害がある人にはとても大変な事がたくさんあると思います。

例えば、僕のような足が不自由な人間からすると、普通のアスファルトのほんの少しのでこぼこでも転びそうになったり、車イスでは段差が登れなかったり、道路に飛び出しそうになり危ない事になったことがありました。階段によっても、幅の違いがあったり、高さの違いがあって登るのに苦労します。自分と違う見た目に対して、僕のことを好奇心で見る人もいるし、同情の心で見る人もいる。親切な心で見てくれていたとしても、離れた所で見ている目は、同じ好奇の目で見ているとしか感じられない時があり、慣れるまで辛かったです。今は自分に少しは自信をもっているのです。それほど感じなくなりました。結局、人が変わったのではなく、自分の心のもちようなんだと思いました。

最近、電車に乗ることがありました。電車から降りる時、段差が広くて一瞬、体が斜めになりそうになった時、10代から20代の男の人がサッと手を差し伸べて助けてくれました。お礼を言う間もなく、その人は電車に乗り込み去っていきましたが、すごくホッとして、幸せな気持ちになり、また、ありがたく感じました。

障害のある人が委縮することなく、健康な人と同じ場所で堂々と過ごす事が出来る、そんな環境を整える事が大切だと思います。

そのためには、バリアフリーの場所を多くする、歩道の整備をする、駅のエレベーターを利用しやすい場所に設置する、階段に手すりをつける、車イスだと手動のドアが開けづらいなど、これは足が不自由な自分が感じた事ですが、例えば目が見えない人、耳が聞こえない人は、展示案内が少ないとか、点字ブロック上に自転車が放置されている、歩道が傾斜している、電車のアナウンスが聞こえないなど、外見では分かりにくい障害であるため、周りの人から誤解されたり、自分の思いを伝えられず辛い思いをすることもあると思います。

このように障害によってさまざまな問題があると思いますが、さまざまな障害のある人たちが生活しやすい社会、偏見のない社会になったらうれしいなと思います。

最近、障害者支援施設を見かけることがよくあります。ドアの所に、「トイレあります。お気軽にお入りください。困っていることがあったらお声をかけてください。」と書いてあります。なかなか入る勇気はないけれど、本当に困った時に助けてくれる所があるというのは、とても心強いです。

街中で困っている人がいたら、見て見ぬフリをせず、声をかけてあげる。しかし、その行為はとも勇気が必要です。もし声をかけてトラブルを起こしてしまったら、変な事を言ってその人を傷つけてしまったら、・・・など。しかし、その不安を無視して助けに向かうのもあまりよくないと思います。

僕は一度、バッグを持って帰っていた時に、近くにいた人に「持ってあげようか？」と聞かれました。その人は知り合いだったので素直に頼りましたが、申しわけない気持ちでいっぱいになりました。だけどその後で、困っている人を助ける勇気も必要なら、困っている時に頼る勇気も必要だと思いました。

僕はたくさんの人に助けられてここまで来ました。これからは僕もたくさんのお返しをしながら、頑張っていきたいです。

障害のある人となない人が、共に助け合いながら生きていける社会を目指していきたいです。

《世界人権デー》

国際連合は1948年（昭和23年）12月10日の第3回総会において、世界における自由、正義及び平和の基礎である基本的人権を確保するため、全ての人民と全ての国とが達成すべき共通の基準として、世界人権宣言を採択し、12月10日を「人権デー」と定めた。

日本では1949年（昭和24年）から毎年12月10日を最終日とする1週間（12月4日から同月10日まで）を、「人権週間」と定めた。

平成28年度の「第68回人権週間」では、啓発活動重点目標を「みんなで築こう 人権の世紀 ～考えよう 相手の気持ち 未来へつなげよう 違いを認め合う心～」とし、(1) 女性の人権を守ろう、(2) 子どもの人権を守ろう、(3) 高齢者の人権を守ろう、(4) 障害を理由とする偏見や差別をなくそう、(5) 同和問題に関する偏見や差別をなくそう、(6) アイヌの人々に対する理解を深めよう、(7) 外国人の人権を尊重しよう、(8) HIV感染者やハンセン病患者等に対する偏見や差別をなくそう、(9) 刑を終えて出所した人に対する偏見や差別をなくそう、(10) 犯罪被害者とその家族の人権に配慮しよう、(11) インターネットを悪用した人権侵害をなくそう、(12) 北朝鮮当局による人権侵害問題に対する認識を深めよう、(13) ホームレスに対する偏見や差別をなくそう、(14) 性的指向を理由とする偏見や差別をなくそう、(15) 性同一性障害を理由とする偏見や差別をなくそう、(16) 人身取引をなくそう、(17) 東日本大震災に起因する偏見や差別をなくそう、を強調事項とした。

《表彰》

全国納税貯蓄組合連合会・国税庁主催 「中学生の税についての作文」

入賞 3年 野田 桃生

「落ち葉掃き」ありがとうございました。

先週までの面談期間中に、各部活動が校内の落ち葉掃きに取り組みました。また、その後にも野球部・男子バスケット部・一年生の有志が地域の「新興多摩街道」の歩道の落ち葉掃きに取り組んでくれました。

校内はもちろんですが、地域にも目を向けられたことがたいへんすばらしいと思います。ありがとうございました。

